

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立末広小学校	学校No.	26
-------	-----------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

目標

- ・「わたしのしあわせ みんなのしあわせ」というテーマのもと、みんなが幸せに生活できるように、私たちに何ができるのかを考え、行動すること。

計画

- ・ワークシートを用いて、福祉とは何か、街の中でどんな場面で困る人がいるのか、生活する中で不便なものはあるかなどについて、友達と意見交流をすることで知識を増やす。
- ・車いすや点字、手話の講師に教わり、実践力をつける。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

ワークシートを用いて、以下のことについて考え、意見交流する。

- ①福祉とは何か
- ②街ではどんな人がどんなことに困っているのか
- ③まちや学校で行われている工夫について
- ④自分のテーマ（動くこと・見ること・聞くこと）を選択し、本やパソコンで知識を増やす。

車いす体験・手話体験・点字体験に分かれて、実践の仕方を身に付ける。

講師の方に、どんな場面で困るのか、生活の中で工夫していることについて話を聞く。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

生活の中でどの場面で困るのか、どんな支援をすると良いのか、友達と意見交流をしながら考えを広げることができた。初めの授業では、街中にあるバリアフリーの場所を見つけることができなかった児童も、学習を進めていく中で、家の近くにスロープがあることに気付いたり、点字を用いた看板を見つけたるするなど、身近にある工夫を感じることもできた。また、実際に車いすを操作して、小さな段差にも細心の注意をする必要があること、手話でコミュニケーションをとる時には、口の動きや表情も読み取るということを手伝った。今後も学習の機会を設け、みんなが幸せに生活できるように私たちに何ができるのかを考え、行動できるような児童の育成に努めていきたい。







※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 6 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市西成東小学校	学校No.	27
-------	-----------	-------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、社会福祉への関心と理解を深め、様々な体験活動や交流を通して『福祉の心』を育てることをねらいとし、主に5年生の「総合的な学習の時間」の活動を中心に教育活動を進めている。

5年生では、「こころのバリアフリー～ぼく、わたしにできること～」をテーマとし、以下のような目標を掲げ、計画立案、実践に取り組んだ。

目標 「ふ…ふだんの」「く…くらしの」「し…しあわせ」という、福祉の本質について理解を深め、学校、地域、家庭で自分に出来ることを追求し、実践する姿勢を養う。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) SSWによる講義

福祉という言葉の意味や、日常から分かる福祉に関するものについて講義をしていただき、児童らの理解を深めたうえで体験活動を実施した。

(2) 福祉体験

講師の方を招いて福祉実践教室を行った。

- ・車いす体験・ 車いすに乗った相手を移動させたり、自分で前進・方向転換したりする活動を行った。使う人の気持ちやどんな手助けが必要かを学ぶことができた。
- ・高齢者疑似体験・ 加齢に伴う身体的変化や生活上の不便さなどを体験し、高齢者への思いやりの大切さを実感するとともに、介護の基本的な考え方について理解を深めることができた。
- ・認知症理解・ 講義で認知症の症状や接し方を学び、適切なコミュニケーションや支援の工夫について理解を深めた。
- ・点字体験・ 点字の読み書きを行いながら、講師や周りの友人と交流を図った。点字への理解が深まった。

(3) まとめ

総合的な学習の時間の福祉体験や調べ学習で学んだことをもとに、文章にまとめたり、学習した内容を発表したりした。学んだことをもとに、自分たちにできることを考えさせるなどして、福祉に対する気持ちを深めることができた。

3 福祉教育の成果と今後の課題

「講義を受ける」「体験を行う」の両方を計画的に実施したことで、学びがより深まった。中学生でも福祉体験を行うが、その際に今回の学びを生かしてほしい。そのためにも、一度きりで終わらず、学級活動や道徳の授業などを活用し、継続的に指導していくことが大切だと考える。



2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立今伊勢西小学校	学校 No.	28
-----	-------------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（1）目標

- ・障がいのある人々との交流を通して、お互いの良さを認め合い、心豊かな生活が送れるようにする。
- ・共生社会の構築に主体的にかかわることのできる児童の育成を図る。

（2）計画

- ・福祉実践教室 ・福祉実践教室の事前・事後指導 ・あいさつ運動 ・学校行事への高齢者の招待
- ・各種募金運動

（3）推進体制

- ・計画に該当する学年または児童会、委員会で計画的、具体的に推進する。
- ・4年生の総合的な学習の時間において、「福祉」について学び、理解を深める。また、4年生に対して福祉実践教室を実施する。

2. 福祉教育の具体的活動の内容

福祉実践教室

4年生は車いす体験、点字体験、ガイドヘルプ体験の3つの体験活動を行い、障がいのある方への理解を深めることができた。また、まとめの新聞を作り、車いすや白杖などの道具への理解も深めた。

（1）点字体験

点字のひらがな表をもとに、一人ひとりが点字を製作した。視覚障がいの方と点字を通してコミュニケーションを取る活動や体験を通して、視覚障がいの理解を深めるとともに、共生への思いを育成することができた。

（2）ガイドヘルプ

アイマスクや白杖を使い、視覚障がいの方々の疑似体験やガイドヘルプ体験を行った。目が見えない怖さを感じるとともに、目が見えない人のために指示を出すことの大切さも学ぶことができた。

（3）新聞づくり

福祉実践教室で学んだことをもとに、障がいのある方々の扱う白杖や車いす、盲導犬について調べ学習を行い、まとめの新聞を作成した。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

様々な活動を通して、児童は福祉の必要性や大切さ、さらに福祉に携わる人々への気持ちや課題に対して理解を深めることができた。共生社会の一員としての自覚が高まり、障がいのある方々へ手を差し伸べようとする実践意欲の向上が見られた。また、仲間を思いやろうとする意識が高まった。今後も、道徳や総合的な学習の時間でも育んでいきたい。

令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立葉栗北小学校	学校No.	29
-------	------------	-------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、教育目標「伸びよ たくましく」の精神を学校教育の全面に生かし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成をめざし、日々の教育活動に取り組んでいる。

福祉教育では、みんなが住みよい社会にするために、自分たちにできることは何かを考え、進んで地域社会に奉仕しようとする「ともに生きる」心を育てることを目標とした。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（1）福祉実践教室（5年生）

車椅子体験、高齢者疑似体験、ガイドヘルプ、手話に分かれて体験をした。体験を通して、子どもたちは、それぞれの福祉を必要としている方の苦勞を知るとともに、ボランティアの重要性や助け合うことの大切さを実感することができた。



（2）車いすバスケットボール体験（5年生）

「あすチャレ！スクール」（主催：日本財団パラスポーツサポートセンター）プログラムの車いすバスケットボール体験を行った。パラリンピック男子車いすバスケットボール元日本代表の講師の方から説明や実演を受けた後、車いすバスケットボールの試合を行った。なかなか思うように車いすを操作することができず苦戦していたが、応援する子たちも一体となってゲームを楽しんでいた。子どもたちは、体験を通して障害に対する理解を深め、新たな気づきを得ることができた。



（3）学習発表会（5年生）

「福祉～ともに生きる～」をテーマに、5年生が発表を行った。みんなが幸せな暮らしとはどういうことかを考え、各自で調べたことを多くの保護者の前で発表することができた。また、発表のために調べたりまとめたりする活動の中で、身近な暮らしの中にあるさまざまな工夫を学ぶことができた。



（4）赤い羽根、緑の羽根の募金活動

朝の登校時に、児童会や園芸委員会の児童が中心になって募金活動を行った。募金の意義についての呼びかけもあり、多くの児童が募金に協力していた。募金活動を通して、一人一人にできることはわずかでも、積み重なれば大きな結果が得られるということ、自分の行動が誰かの役に立つということを実感することができた。



3 福祉教育の成果と今後の課題

福祉教育には、それぞれの学年が総合的な学習の時間などを使って取り組んでいる。これらの学習を通して、子どもたちの心に芽吹いた福祉の意識をさらに高めていくためにも、これからも相手との温かいかわり方を体験を通して学ぶ機会をもち、進んで地域社会に奉仕しようという心を育てていきたい。

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立大和南小学校	学校No.	30
-------	------------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

ア 目標
本校は、「知・徳・体の調和のとれた心豊かなたくましい児童を育成する」を目標に掲げ、『自立できる子』を目指し日々の教育活動に取り組んでいる。

イ 計画

- ① 福祉実践教室（5年生）
- ② 「発見！かわいいカード」の取り組み（通年）
- ③ ベルマーク収集活動（7月・12月・2月）
- ④ 異学年交流【なかよしペア活動】（随時）
- ⑤ 人権週間（12月）

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

ア 福祉実践教室
5年生が、福祉実践教室での経験をもとに、総合的な学習の時間に福祉についての調べ学習を行い、調べ、まとめた内容を学習発表会でそれぞれが発表した。

イ 「発見！かわいいカード」の取り組み
『自立できる子』の足がかりとなる「自己肯定感」の育成を目指し、自分や人のよいところ（「かわいさ」）を自分で見つけ、周りの人と認め合う活動を行った。

ウ 異学年交流【なかよしペア活動】
6年生と1年生、5年生と3年生、4年生と2年生をペア学年として、週に1回、中間放課・昼放課に交流活動を行った。また、一鉢運動に取り組み、11月に卒業式に向けてビオラを植えた。

わくわく交流会を2学期、3学期に1回ずつ実施した。ペアのグループで校内クイズラリーに挑戦した。今年度は、児童から出た意見を採用し、お化け屋敷をつくり多くの児童が楽しんでいった。また、6年生を送る会を3月に体育館で実施する予定である。

エ 人権週間
人権に関する校長の講話、各学級で考えた人権スローガンの発表を行った。また、人権擁護委員の方をお招きし、低学年、高学年に分けて人権教室を実施した。その様子は、学校のWebページに掲載した。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

5年生で福祉実践教室を行った。実際に体験をすることで、障害のある方への配慮の意識が高まっていた。また、実践教室で体験した「点字」に関心が高まり、点字を打つ道具を福祉協議会の方にお借りし、手紙をつくる児童もみられた。

人権擁護委員を招いて人権教室を実施したが、発達段階にあった動画や講話であり、全ての児童が人権について考え、友達の大切さ、思いやり、命の尊さ等について考えを深めることができた。

「発見！かわいいカード」の取り組みにより、お互いの良いところを見つけ合い、児童の自己肯定感を高めることができた。

今後も、福祉実践教室や人権教室のように、専門機関と連携をした児童の心に響く活動を行っていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。